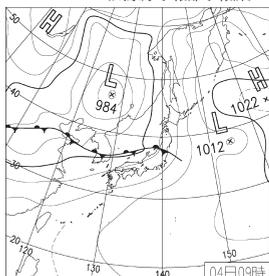


日々の天気図

— No. 138

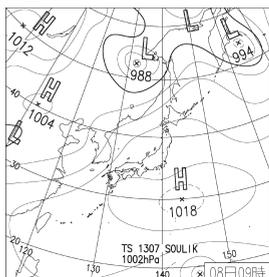
2013年 7月

- ・月の前半は全国的に高温、西日本はその後も高温続く。
- ・東北は梅雨前線の停滞する日が多く、日照時間少なく大雨や長雨。
- ・28日、山口県・島根県で記録的大雨。山口市前町143 mm/1h、山口県秋市須佐138.5 mm/1h、島根県津和野町森村で日降水量381 mm。(気象庁予報部予報課)



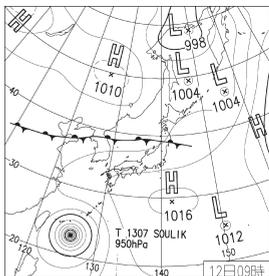
4日(木)梅雨前線停滞

引き続き梅雨前線が停滞し、西日本～北日本で曇りや雨、和歌山県新宮で66 mm/1h、日中は北陸や北日本の一部で晴れ間があり、金沢で最高気温34℃。



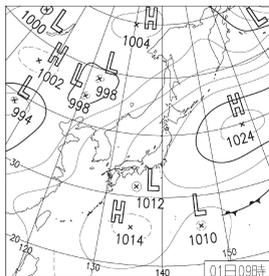
8日(月)東海以西 梅雨明け発表

西～東日本では、高気圧に覆われ晴れて気温上昇。猛暑日95地点。九州～東海で梅雨明けを発表。東北は曇りや雨で、日本海側では激しい雨。マリアナ諸島で台風第7号発生。



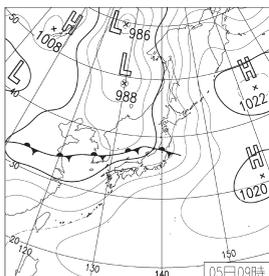
12日(金)台風第7号先島諸島へ

西～東日本は晴れて猛暑。東北は梅雨前線による雨で、秋田県中心に日降水量100 mmを超えた所多数。台風第7号は沖縄県先島諸島へ、石垣市登野城で最大瞬間風速59 m/s。



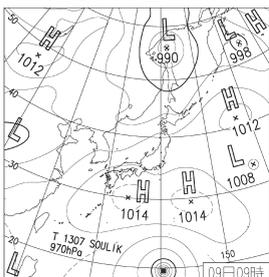
1日(月)奄美 梅雨明け発表

前線や気圧の谷の影響で太平洋側は雲が広がり九州は雨の所も。午後は寒気の影響により大気の状態が不安定となり本州各地で局地的な雨。奄美は平年より2日遅い梅雨明け発表。



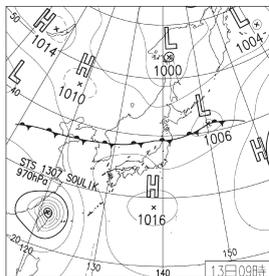
5日(金)6月19日以来の猛暑日

梅雨前線や湿った気流の影響で西日本日本海側～東北は雨。島根県隠岐空港で43.5 mm/1h。西日本～東海は次第に晴れて気温上昇。九州・四国を中心とする9地点で猛暑日。



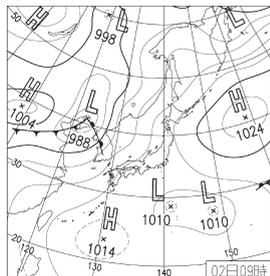
9日(火)全国的に気温上がる

沖縄・奄美、西～東日本は高気圧に覆われ晴れて東海・関東を中心に94地点で猛暑日。山梨県甲州市勝沼で39.1℃。北日本も暖気流入で気温上昇、626地点(全国の68%)で真夏日。



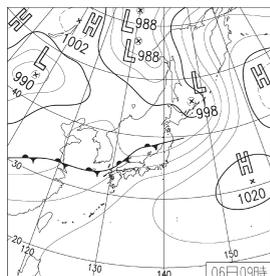
13日(土)西日本で雷雨

台風第7号は未明に沖縄県と那国島付近を通過、与那国町相約で最大瞬間風速60.2 m/s。西日本は大気の状態が不安定となり雷雨。京都府京田辺で56.5 mm/1h、7月の1位を更新。



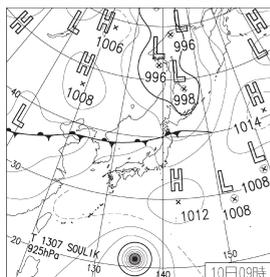
2日(火)北日本で雷雨

中国東北区を低気圧が北東進、日本付近は南寄りの風が強まり、特に西日本～北日本の日本海側を中心に昇温。北日本は上空寒気が残る午後には雷雨。秋田市大正寺で61 mm/1h。



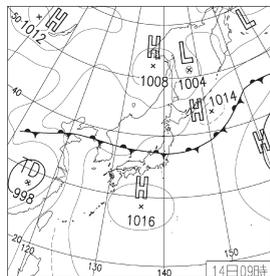
6日(土)関東甲信 梅雨明け発表

西～東日本の日本海側を中心に雨。佐賀県伊万里で67 mm/1h。南風により気温が上昇し、関東13地点を含む21地点で猛暑日。関東甲信で平年より15日早い梅雨明けを発表。



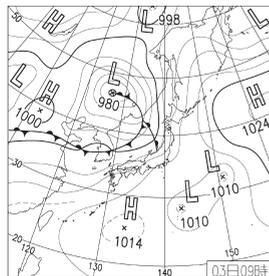
10日(水)東京 4日連続の猛暑日

高気圧に覆われた沖縄・奄美や西日本～東日本太平洋側ではよく晴れ、気温上昇。東海・関東を中心に猛暑続く。相模湾と岩手県沿岸北部で地震あり、共に最大震度4。



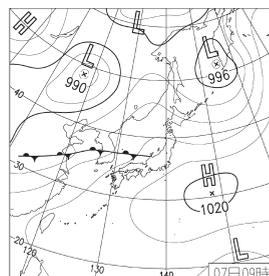
14日(日)東北に梅雨前線停滞

梅雨前線が停滞し、北陸～東北で曇りや雨。西～東日本でも前線に流れ込む湿った気流により大気の状態が不安定となり各地で雷雨。台風第7号は華中で熱帯低気圧に。



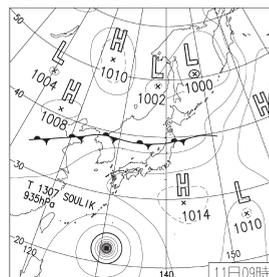
3日(水)西日本で大雨

梅雨前線が日本海に停滞。西日本～北日本で曇りや雨となり、九州では非常に激しい雨。福岡県八女市黒木で79.5 mm/1h、北九州市八幡西区鷹の巣で観測史上1位更新の73 mm/1h。



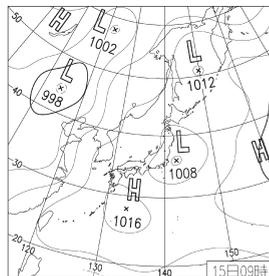
7日(日)日本海側中心に雨

梅雨前線の南側は暖かく湿った空気が流れ込み、西日本～東北日本海側を中心に雨。長崎県対馬市厳原で68 mm/1hの非常に激しい雨。東京は最高気温35.4℃で今年最初の猛暑日。



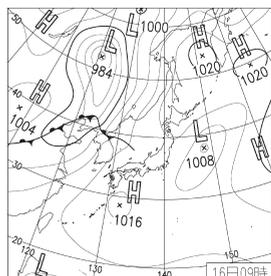
11日(木)引き続き猛暑

西～東日本は猛暑が続く。梅雨前線が停滞した東北は雨。関東北部は大気の状態が不安定となり宇都宮で最大瞬間風速29.5 m/s。群馬県館林で39.5℃等、猛暑日140地点。



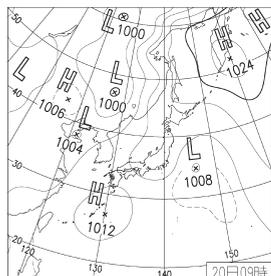
15日(月)山陰と東北で猛烈な雨

暖かく湿った空気と上空の寒気の影響で大気の状態が非常に不安定となり山陰や東北を中心に大雨。島根県安来市伯太100.5 mm/1h、岩手県宮古市区界86.5 mm/1h他、史上1位更新。



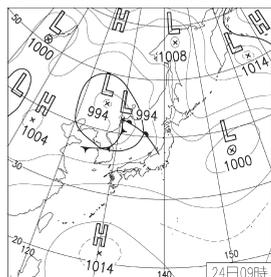
16日(火)西日本で猛暑日

高気圧に覆われて晴れたが、気圧の谷の影響を受けた近畿～東海や北海道は曇りや雨。午後は大気の状態が不安定となり山沿いで局地的な雨。九州・中国・四国で猛暑日3地点。



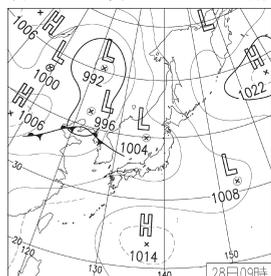
20日(土)全国的に概ね晴れ

沖繩～西日本は高気圧に覆われ気温上昇。東～北日本はオホーツク海高気圧からの冷気流入により気温が低く、最高気温は太平洋側沿岸部を中心に平年より3～5℃程度低め。



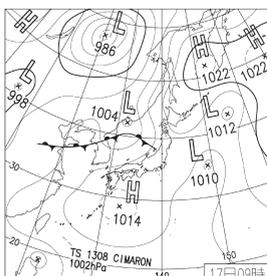
24日(水)最高気温は北冷西暑

日本海の前線により近畿～東北で雨。九州以南は晴れ。西日本は広い地域で真夏日だが東～北日本は一部を除いて真夏日なし。大分市長浜で最高気温37.8℃、観測史上1位を更新。



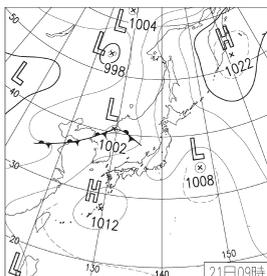
28日(日)山口、島根で記録的大雨

西日本～東北で大気の状態が不安定。山口県、島根県でこれまでに経験したことのない大雨。山口市前町143 mm/1h、島根県津和野町森村で日降水量381 mm等、大幅に記録更新。



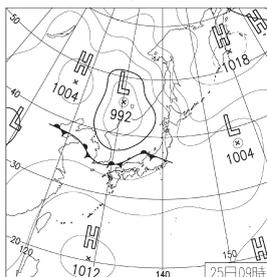
17日(水)関東・北陸・東北で雨

西日本は猛暑持続。梅雨前線からのびる雨域により北陸・東北は昼頃から、関東も夕方から雨。埼玉県鳩山は74.5 mm/1hで観測史上1位更新。フィリピンの東で台風第8号発生。



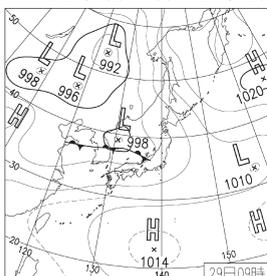
21日(日)西日本の暑さ続く

高気圧に覆われ全国的に晴れて東海・北陸以西はほぼ全域で真夏日。大分県日田市三本松で36.7℃等、九州を中心に17地点で猛暑日。午後は西～東日本の山間部で局地的な雨。



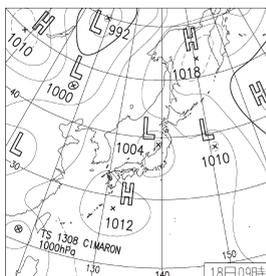
25日(木)西日本で暑さ続く

前線に向かって暖かく湿った空気が南から流れ込み、西日本は気温上昇。高知県黒潮町佐賀では観測史上1位の38.6℃。大気の状態が不安定となった近畿～北陸は午後雷雲が発達。



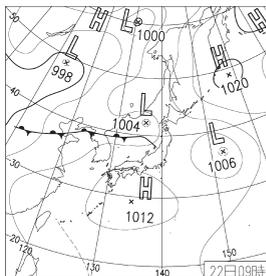
29日(月)北陸で大雨

湿った空気の流入により、西日本～北日本の広い範囲で雨。北陸では大雨となり、石川県白山吉野は日降水量235.5 mmで観測史上1位更新。沖縄・奄美は高気圧に覆われて晴れ。



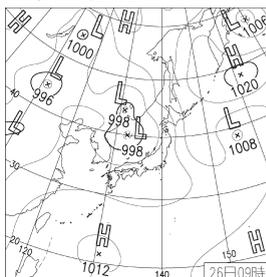
18日(木)東日本・東北で大雨

低気圧が東北へ進み、東日本と東北は雨で山形県や静岡県で非常に激しい雨。山形県西川町大井沢は日降水量212 mmで観測史上1位を更新。静岡県東伊豆町稲取で78 mm/1h。



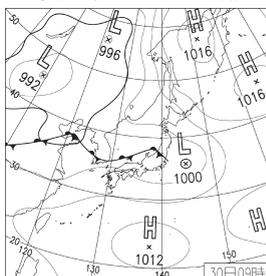
22日(月)東北で大雨

高気圧に覆われ西～東日本で気温上昇。宮崎県西米良で38.1℃。北日本は前線の影響で曇りや雨。山形県楡引で63 mm/1h、高島で日降水量157.5 mm、共に観測史上1位を更新。



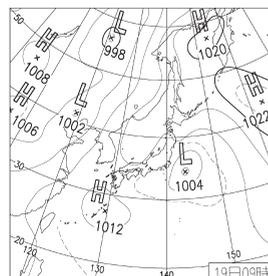
26日(金)各地で局地的大雨

全国的に大気の状態が不安定となり、九州～東北で局地的な雨や雷。宮城県森町筆甫で86 mm/1h、気仙沼で84.5 mm/1hの猛烈な雨となり、共に観測史上1位を更新。



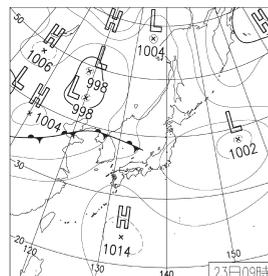
30日(火)本州日本海側大雨続く

暖かく湿った空気の影響で、本州日本海側を中心に大雨持続。新潟県魚沼市入広瀬73 mm/1h、島根県大田市大田65 mm/1h。愛媛県今治で最低気温29℃、高い方からの1位を更新。



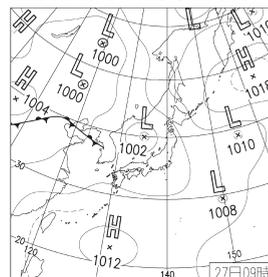
19日(金)北陸や東北で雨

低気圧の影響で北陸や東北の太平洋側を中心に引き続き雨。東北太平洋側では冷気流入で4～5月並の最高気温の所も。台風第8号は午前3時に台湾海峡で熱帯低気圧化後、消滅。



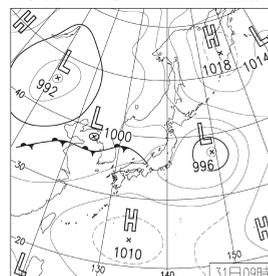
23日(火)東京23区で記録的大雨

湿った気流の影響で、東～北日本で曇りや雨。午後は関東南部で大気の状態が非常に不安定となり、東京都目黒区・世田谷区で16時30分に約100 mm/1hを解析。福島県で震度4。



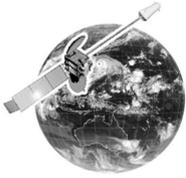
27日(土)連日の雷雨

大気的不安定な状態が持続。東日本～東北は昨日に続いて雷雨。栃木県鹿沼で99 mm/1hの猛烈な雨となるなど、関東・北陸・東北の6地点で1時間降水量の観測史上1位を更新。



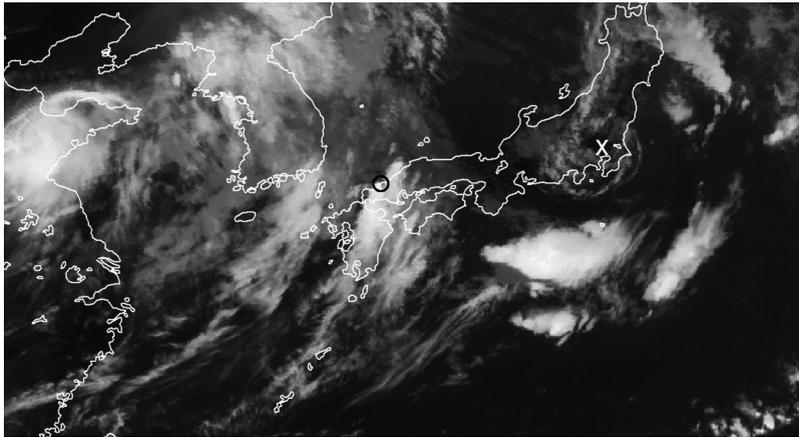
31日(水)台風第9号発生

日本海に停滞する前線の影響を受けた北陸や北日本は雨。新潟54 mm/1hは7月の1位更新。西～東日本は晴れて猛暑日54地点。宮崎県西部の最高気温38.4℃は観測史上1位更新。

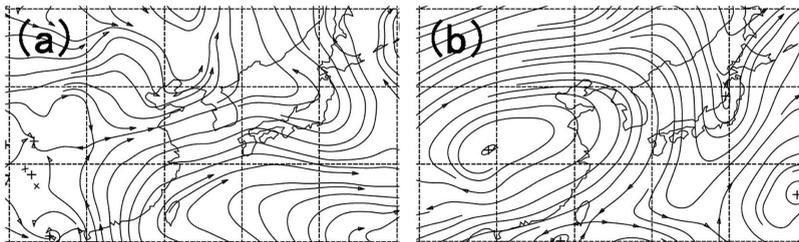


今月のひまわり画像—2013年7月

山口・島根県を襲った記録的な大雨



第1図 2013年7月28日12時（日本時間）の日本付近の赤外画像（記号については本文参照）。



第2図 気象庁全球モデルによる28日09時の日本付近の(a)850 hPa, (b)200 hPa 流線解析図。

2013年7月28日、山口県の北部、中部から島根県西部にかけての地域で猛烈な雨が降り、記録的な大雨となった。同日昼前、気象庁は同地域に対して「これまでに経験したことのないような大雨となっている所がある」と最大級の警戒を呼びかけたが、山口県萩市、島根県津和野町で計4名の死者・行方不明者が出た。

第1図は28日12時の日本付近の赤外画像である。同日、山口・島根県は梅雨前線の南側に位置しており、下層には太平洋高気圧周辺の暖湿な気団が対馬海峡付近から収束しながら流れ込んでいた（第2図a）。一方、中上層に目を向けると、寒冷渦（第1図中の記号×付近）が東日本を通過していた。本州付近の中層には低相当温位の空気が入り込んでおり、西日本では対流不安定が顕著となっている所があった。また、局地解析によると、瀬戸内海西部付近における冷気層、山陰沖に発生したメソ擾乱からのびる収束線などが明

瞭であった。これらの要因が重なり、同日明け方から昼頃にかけて両県付近ではクラウドクラスターが発生・発達した。アメダス観測所萩市須佐（第1図中の記号○の中心）では12時20分までの3時間に7月の月降水量の平年値を上回る301.5 mmの降水量が観測された。この時間帯の対流雲の雲頂高度を T_{BB} （等価黒体温度）で見ると、約 -64°C （高度約14 kmに相当）であった。また、第1図から西日本付近の発達した対流雲の雲頂は圏界面付近に達し、羽毛状の巻雲が南西方向に吹き出している状況がわかる。この流れは200 hPa付近のチベット高気圧周辺の風の場合（第2図b）によく合っていた。過去に山口県付近で発生した大雨時における衛星画像を見ると、このように近傍で巻雲が南西方向にたなびいて、すだれ状になっている事例が多い。

（気象庁予報部予報課 木下 仁）